

# 令和6年 **6**月の大阪**森林**便り

## 目次

### **6月の木の話 木材の燃えしろ設計**

- (1)  輸入木材高騰 物流費高止まりと円安で
- (2)  国産合板、2年ぶり上昇 価格5%高
- (3)  集成材原料、欧州産13%高 4~6月対日
- (4)  木造人工衛星、今秋宇宙へ 木造宇宙ステーション目指す

### **6月の木の話 木材の燃えしろ設計**

\*木材は一般的に燃えやすいとの認識がありますが、太い丸太や厚い角材は材自体の断熱性能が高く温度上昇が遅いことに加えて、表面に着火しても炭化層を生じ、それがさらなる断熱と酸素を遮断する役割を果たすため、なかなか燃焼しません。

\*厚さ25mmの木材壁では、燃え抜けるまでに約30分を要し、その間、炎の遮断の働きが期待できます。

\*木材は、断面が大きく暑さが厚いときには、火災による強度の低下は比較的ゆるやかで、避難のための時間的な猶予を得られることが期待できます。

\*「燃えしろ設計」：火災時、ある想定した時間内に構造物が炭化によって断面欠損したとしてもなお安定性を保つように計算する設計方法。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)

### (1) **輸入木材高騰 物流費高止まりと円安で**

#### **ナラ6割 タモ4割 家具メーカー、国産に活路**

\*ナラ材の輸入単価は4年で6割上昇し、2000年以降で最高値。

\*タモ材も4年で4割上がりました。

\*海上物流費の高止まりや円安が追い打ちをかけました。

\*家具メーカーは国産の樹木の利用に乗り出しています。

\*北海道産ナラの丸太相場は、2023年度に2019年比で73%高。

\*北海道産タモの仕入れコストも5割高から2倍。

(2024年5月2日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2)  **国産合板、2年ぶり上昇 流通価格5%高**

**原料費・運賃転嫁進む**

- \*国産針葉樹合板の流通価格が約2年ぶりに上がりました。
- \*東京地区では5月中旬の価格が上旬比で5%高。
- \*値上がりは2022年6月以来。
- \*国産合板価格は2023年半ばから下落基調でした。
- \*メーカーは年内にも再値上げを表明する見通し。
- \*工場から出荷するための物流費は、2023年比で2~3割上がりました。
- \*木造住宅着工戸数は前年割れが2年間続きます。
- \*プレカット工場の稼働率も8割程度。

(2024年5月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3)  **集成材原料、欧州産13%高 4~6月対日**

**住宅不振で需要減退 日本企業、価格転嫁も**

- \*集成材の原料、ラミナの値上がりが加速しています。
- \*欧州産の4~6月期の対日価格は、1~3月期に比べ13%高。
- \*値上がりは2023年10~12月期から3四半期連続。

(2024年5月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4)  **木造人工衛星、今秋宇宙へ**

**木造宇宙ステーション目指す 京都大学・住友林業**

- \*京都大学と住友林業は、世界初の木造人工衛星が完成したと発表。
- \*100X100X113.5ミリの超小型衛星。
- \*4ミリのホオノキの板を組み上げた木箱に電子回路等を内蔵。
- \*アルミフレームや太陽光パネル等を取り付け。
- \*9月に国際宇宙ステーションへ打ち上げられ、宇宙空間で実際に運用されます。 \*約4年かけて開発。
- \*9月にケネディ宇宙センターからロケットで国際宇宙ステーションに運ばれ、11月から実際に宇宙空間で人工衛星としての運用が始まります。
- \*人口衛星は最終的に大気圏に再突入させて燃焼させますが、木材は燃え尽きるので地球の大気を汚しません。

(2024年5月30日 日刊木材新聞記事より抜粋・引用)